

そうきぎょとう

## 桑基魚塘 クワとサカナのものがたり

—中国伝統の自然循環農法・その保存の試み—

2013年度・2014年度 企画研究映像（DVD）完成台本【サマリー】

ばい ろん

重 森 貝 崙

この論考・完成台本は、研究映像DVD「桑基魚塘 クワとサカナのものがたり」をより正確に分析的に観ることができる、文の付属資料として作成した。

「桑基魚塘」は中国・広東省の順徳地方を中心に行われてきた自然循環農法である。これは珠江デルタの低湿地帯で土を掘って池（魚塘）を作り、堤（基台）を造成して、その上に桑の木を植え、桑の葉や死んだ蚕などを餌に、3種類以上の魚を養殖（混養）するという、養蚕と養魚を同時並行的に行うユニークな農・漁法で、600年ほどの歴史をもつ。広東省は、歴史的に淡水の魚にも、海の魚介類にも恵まれ、厚みのある魚食の食文化が存在してきた。この自然循環農法は、その食文化に立脚点があると言えよう。

この自然循環農法が盛んに行われたのは1940年代までで、化学繊維の発明・普及とともに衰退し、現在一般農家ではほとんど消滅している。しかし、この憂うべき状況に危機感を抱いて、桑基魚塘の歴史を世の中に広く紹介し、その保存と継承のため、個人で「桑基魚塘博物館」を設立した篤志家が現れた。その人物が南国絲都絲綢博物館・呉英海館長で、すでに4000本の桑の木が植えられ、2014年から本格的に魚の養殖を開始する。入館者は延べ約20万人に及ぶという。

現在、広東省の田園地帯にも大気と水質の汚染が忍び寄っている。工場の進出がその主たる原因であるが、現在、淡水魚の養殖を短期のサイクルで、大量飼育を行っているところにも問題があり、自然との共生が可能な桑基魚塘の果たすべき役割は大きい。

映像は、この博物館を拠点に、今では珍しい存在になっている自然循環農法のシステムを具体的に調査・分析し、映像による論考としてまとめたものであり、他方この完成台本は、研究映像をより正確に、分析的に観ることができるようにという目的で作成されたものである。